

障害を持った私のくば市での生活はどう変わったか

岩下 宏

一、「同行援護と対面朗読の利用で仕事が軌道に」

つくば市での生活が今年4月で二年目に入りました。

正直一年目は、ここでの生活は視覚障害を持った私には厳しいところと思っていました。

週3日の施設勤務と週二回の専門学校勤務はどうにか女房によるバスを利用しての牛久駅までの送迎と夜遅くの近所の方の車での迎えで一応成り立っていました。

上野駅での常磐線と高崎線との乗り換えは駅の人や他の乗客の方の援助もあって思ったよりスムーズに行っています。

一方、仕事の関係で書類や資料を読まなければならぬことが多い、図書館での対面朗読は、東京に住んでいたときから私にとって欠かせないものでした。

昨年は市立図書館では前例がないと断られました、今年には粘り強く交渉した結

果、7月から9月にかけての専門学校が休みのときに、七回ほど利用することができました。朗読ボランティアの方には、対面朗読を初めて経験した方も多く、「市報などの朗読よりも、利用者の声が直ちに返ってくるので楽しい」と喜んでもらえました。また市立図書館への往復は同行援護の制度による社協のガイドヘルパーを利用し、交通機関はつくバスを利用しました。なお同行援護の制度は市外や県外でも利用できることが分かり、埼玉県でも使用しました。

二、「女房の歩行障害により介護保険の制度をいろいろと知ることができました。」

今年7月はじめに私の外出時のヘルパーでもあった女房が突然膝の障害で歩くことが困難になりました。

これにはほとほと困りました。朝早く(前5時40分頃)はタクシーも来てくれません。

ところが隣の家のご主人が週二回程度だったら駅まで

送ってくれるというし、また別の家の奥さんが夜遅くなつたときは迎えに来てくれるというし、本当に助かりました。

娘が急いで市役所に相談に行くと、すぐに介護保険の申請をするように言われました。

それがきっかけとなって、ある事業所のケアマネージャーと知り合い、私の家の状況をみて、いろいろなアドバイスをしてくれ、いくつかの制度を利用することができ、これが現在の私たちの生活を支えてくれています。

例えば、休日でもヘルパーさんを派遣してくれる事業所の紹介、風呂やトイレ、階段などの手すりの設置、駅まで車で送迎してくれる友の会助け合い(NPO法人で、料金はタクシーの半額程度)の紹介などです。

私も毎週日曜日には、ヘルパーさんと散歩をしながら買い物を楽しんでいます。

制度利用にはもちろん自己負担がありますが、介護保険(要支援2級)は1ヶ月1200円、同行援護は1時間

410円です。

今では、女房の介護保険と私の同行援護の利用によって日常生活が成り立っています。

またいろいろな人との出会いがあり、生活にもいくつかの変化ができました。

最近になってやっと視覚障害者でも上手に制度を利用すれば、なかなか住みよいところではないかと思うようになりました。



ふれあいまつりに参加の岩下宏さん

パソコン勉強会

ふれあいサロンの活動として月2回実施されています。

会員さんの感想

*KSさん：今日初めてパソコンに入った。お料理のレシピ作りや日記を書いたり

パソコン 新年の抱負

- ・健康に気をつけて毎日を楽しく過ごしたい。
- ・写真入りのニュースや新聞を作ってみよう。
- ・家計簿をつけてみたい。
- ・パソコンを自由自在に動かしてみたい。

してみたいな。ブラインドタッチでばんばん打てるようになったらと夢はどんどん膨らむ。みなさんよろしくお願ひします。

*MYさん：今日はパソコンに来て三回目です。何時も家に帰って夕食を済ませてからパソコンを始めるのですが、今日やっばかりなのに分かるところが5分の一かな？そこまでも出来てないな。できるできないは別として教室でのパソコンが楽しいので嬉しい。

*KTさん：今日のパソコン教室は賑やかで楽しい。いつも、初心者むけに優しく教えて下さるのが、とても嬉しい。



パソコン学習風景